

第2回牧之原市学校再編計画策定委員会記録【概要】

- 1 日 時 令和元年12月4日（水）午後1時30分から午後4時30分
- 2 場 所 市立菅山小学校、相良中学校、牧之原市役所相良庁舎
- 3 出席者 島田桂吾、石神綾子、横田恭子、小柳津敏法、櫻井真弓、
服部真和、種茂和男、赤堀康彦、増田ひとみ、良知恵里香
(委員全員出席)

4 概 要

策定委員会は、牧之原市の現状を知る機会として市内小中学校1校ずつを視察し、その後事務局より市のデータから見た学校の現状説明を受けた。策定委員は、現状についての各見解を共有するとともに、今後の検討に必要な資料等について協議した。

(1) 現状について

- 初めて見た学校だったが、いい面、悪い面があった。古いからか廊下の痛みやペンキのはがれなどがあった。今後建てるのであれば、材料も長期対応できるもので、生徒数が増えるなら廊下の幅も広いものもいい。明るい感じは、学校を造る上で大事だと思う。
- 自分の子どもが通っている学校は古い校舎。今回見た学校は少し新しいだけで感じが違う。明るいのはいいが、やはり耐震が心配。もし、渡り廊下が地震のときに落ちたら……。子どもたちに何か起きたら怖いと感じた。児童生徒数が少ない学校は、小さいからこそ先生が子どもだけでなく施設面もいろいろ見てくれていると感じた。
- 子どもたちが安心して通える学校が一番。視察した学校の先生は、現在の問題や修繕の必要など把握しているのでありがたい。確実に人口減していくので、多少の人数変動にも対応できる教室づくりは大事だと思う。できれば人口減を止めるような魅力ある学校にしたい。他のところから通いたいと思える学校にできたらと思う。海と山に囲まれているので、その地域性は忘れてはならないものであるし、地元の人とふれあいができる学校づくりにしたい。
- 相良中学校に初めて行ったが、規模の大きさを感じた。昔よりは生徒が少なく、部屋が余っている。特別教室が隅、図書室も子どもたちのいる教室から遠くにある。そういった場所なども改善したら子どもたちがよりよい生活が送れるのかと思う。菅山小学校については、特に問題点はないと思っていたが、夏休みにプール開放ができていない。そのうちプール自体やれなくなるのではという心配がある。現在、萩間小学校はプ

ールを使えないため、B & Gにバスで行って授業をやっていると聞いている。使えるプールを使っていく、予算があるなら修繕する、としてももらえるといい。プールが使えなくなり、水泳の授業ができなくなって子どもが泳げなくなるのは問題だと感じる。

- 今後学校再編をどうしていくか、将来どの時点を元に考えるか知りたい。旧榛原町と旧相良町が合併してこれだけの学校がある。小中学校をいくつかにしていくのか。
- 人口減は確実だと思う。川根本町はICTの指定を受けている。牧之原市も光ファイバーが入っている。ICT環境。相良中学校にタブレットが入っているが、図書館にICT関係の本が少なかった。生徒にその関係の本を読んでもらうための環境づくりも必要だと思う。
- 両方の学校とも目標としてはいいが、使われている教室の利用方法があまりにも題目と違う。壊れたら壊れたままではなく、市に報告して取り組んでもらいたい。市の方で修繕してもらえないからそのままでおくのではなく、PTAなどと相談して修繕した方がいい。体育館のガラスも本当に危険だと思っているなら、落ちてこないような対応すればいいと思う。
- 人口が減って小中一貫がどうなるのか、地区でも不安に思っている。何年後にどうなるのか。通える学校はどこなのか。移動の問題も出てくる。どこの年度にどこが閉校になるのか、統廃合するのか、高台に移動するのかなど具体的な位置も示しながら、年度を区切ってやったほうがいい。
- 学校が修繕をしたくてもお金がなくてできないこともある。学校としては、一番初めに何を修繕すればいいかを考えて修繕をしている。まずは子どもの安全が一番。建てた当時は、ICTや外国人支援、不登校の子どもたちに対応する部屋などは全く想定されていなかった。そういうことにも柔軟に対応できる場所が欲しい。
- 教員以外の支援員等の職員の数は増えているため、職員が2人で1つの机を使っているところもある。今後は職員室にいる人も増えていくことが考えられるので、それに対応できるようになるといいと思う。
- 今回見た菅山小学校はアーチ型にしているところに雨漏りがある。多面的に見て造っていくことが必要。どういう学校にしていくかというコンセプトが大事。
- 地域との関わりがあることは、小さい学校のよさ。牧之原のよさがあるので、それを改めて感じられるような学校になるといいと思う。
- どこの学校も古いと思った。学校を大規模修繕しているが、危険なところもまだある。どこの学校も同じだと感じた。

- 川崎小学校に勤務していたとき、一番不安だったことは、津波が来たときに避難場所として校舎の4階に400人の子どもたちが詰め込まれるということだった。もしものときに本当にこの人数の子どもを守れるのかと毎回思った。津波の来ない場所に何百人もの子どもがいる学校があるのが理想だと思う。
- 先日、小中一貫校の浜松中部学園を視察した。小中一貫校のよさを校長に聞いたところ、小中一貫校は教員にとっていい、教員が変わるということだった。小学校の現場にいと6年生がゴールで6年後の子どもを見た教育をしている。小中一貫校は小学校の教員も9年後に子どもがどうなっていればいいのか考えられるようになる。小学校は中学校がやっていることが気になる。一体型の施設なら、気軽に互いの授業を見に行くことができる。
- 子どもたちへのよさとしては、子どもたちは優しくなる。廊下を歩くと、中学生が隅を歩いて、小学生が真ん中歩く。中学生は小学生にすぐくき遣いながら生活をしている。小学生は中学生がテストのときは静かにする。お互い気遣いを持ち、成長すると言っていた。
- ハードに必要なのは安心安全だが、これが幅広くて大変。まずは耐震を考えるとと思うが、静岡県内の建物は頑丈になっている。構造上の耐震性能は大丈夫だが、窓などの非構造部材の対策技術は相当のお金がかかる。構造の耐震性を上げただけでは終わりではない。窓ガラスだけでなく、照明器具が落ちてくるのではないか、バスケットゴールが落ちてくるのではないかということで、文科省から通知がきている。しかし、非構造部材対策は全国的になかなかまだ追いついていない。
- 津波、河川氾濫、土砂災害、風水害など全部に対して安全なものをハードはつくらなければならない。教員の対応に期待する対策でなく、まずはどんな災害がきても建物が安全であること。今は災害が予測可能な時代。津波や河川の氾濫に対してどれくらいの浸水が予想されているかを確認する。そこにどうしても建てたいときはピロティ形式などをとるなど、今は対策が取れる。今後新しいものを考えていくときは、今想定し得るあらゆる災害から子どもたちを守る場所と建物をしっかり選んでいく必要がある。
- 劣化して放置しているものがある。8クラスの時代の建物を4クラスになった今も使っていると、当然余りが出てくる。持ちすぎているハードに対して、適正に管理ができていない。お金がない、人がないことで、なかなか管理が難しくなるのではないか。劣化による雨漏りも放置するのは危険。雨漏りをしているということは、コンクリートの内部が劣化

しているということなので、安全が確保できなくなる可能性がある。適正に維持管理ができる規模や質が求められる。

- 安心、安全が大事。市が施設を適正に維持するためにはどれくらいの規模とするか。しかも後世に不安を残さないもの。それを踏まえて検討していけば安心・安全につながる。
- 生徒の導線も考えないとならない。今後どういう時代や教育になっていくか分からない。どうなっても柔軟に対応できるよりよい建物にする。今図書室はメディアセンター、メディアラボなど1階の目立つ場所に持ってきて、市民も共有できるような流れになってきている。より生徒が通る場所、利用しやすい場所となっていて、そのほうが貸出率も高い。今の建物を建てた時代とはニーズが変わってきている。今から50年後の状態を私たちが予想することは難しいが、そうなることも対応できるいいものを造れたらと思う。フレキシビリティを考えていけば、より良い学校・建物を残していけるのではないか。「より良く」と「基本性能」を残しつつ、コストバランスも考えながら、どこが一番いいのか考えながらいければと思う。

(2) 必要な資料

- 津波や地震が心配なので、ハザードマップが欲しい。
- 児童生徒の導線も考えたいので、建った場合の交通機関や施設などの資料もあればいいと思った。
- 島田市が2022年度から再編すると静岡新聞の記事に載っていた。島田市から参考資料もらえるといいと思う。島田市は北中と第一中が統合するとなっていた。検討資料として用意してほしい。
- 現在の学区。どこの地域の子がどこの学校に行っているか分かるもの。全体像が見えるものがほしい。

【委員長の整理】

安心安全を大前提とし、よりよい教育環境をどう整備していくか。

<必要な資料>

- 現在の学区(学組も含めて)
- ハザードマップ(津波浸水・土砂崩れ・液状化)
- 非構造物対策。長寿命化(のための素材など)
- 他市の事例(島田市など)
- プール移動の効果。現状から聞き取りなど。どういう効果があるか、先生に

とって、子どもたちにとって。

◎具体的な小中一貫のシミュレーション。特に場所。場所が決まらなると交通機関の検討も難しい。生徒数。文化施設等の状況。図書資料。数をどうするか。中学校区と考えると、現状だと3つ。学組があるのと、旧町だと2つ。ゆくゆくは1つという選択もある。シミュレーションとして、3校にした場合、2校にした場合、1校にした場合にどんな場所が想定されるのか、児童生徒数、移動手段特に通学（スクールバス、公共交通）、経費（建物を3つにした場合、2つ、1つの場合それぞれ）〈予算〉

○小中一貫教育のメリット・デメリット⇒視察で見る

地域の人が入ることを想定して部屋をつくるということもあり。そういうことも考えながら視察できればと思う。